



広報みよしは、社団法人日本広報協会主催の平成21年全国広報コンクール町村の部で、第5位に当たる「入選」を受賞しました。

今回は、受賞した報告と併せて、日ごろ広報みよしを応援していただいている町民の皆さんに「広報みよしができるまで」と題して、普段お見せない広報みよしの裏側を紹介します。

これであなたも広報みよし通になれるかも？



▲全国広報コンクールで「入選」を受賞した平成20年11月1日号。本町は、昨年度の5位に相当する「4席」受賞に続き、2年連続の受賞

# 広報みよしができるまで

入選  
2年連続入賞記念特集  
広報みよし全国広報コンクール

## 全国広報コンクールで2年連続入賞

受賞したのは、広報平成20年11月1日号で、特集は総合計画を小中学生の児童生徒に話し合ってもらい、子どもたちが考える理想のまちのプランを「夢プラン」としてまとめた事業を紹介したもの。事前勉強会や町内バスツアー、プラン作成など、子どもたちの取り組みを通して町民の皆さんに総合計画を考えてもらおうという企画内容と、横組みの「お知らせ版」コーナーが裏表紙から始まる、表紙・裏表紙両開きの紙面構成が評価されました。

広報は、取材などを通して多くの皆さんの理解と協力を得て編集しています。今後も、この受賞を励みに「みなさんと町政を結ぶホットライン」として広報の内容充実に努めていきます。

# 広報の紙面構成

「広報みよし」の紙面構成は大きく4つの内容に分け、それぞれのコーナーを5人の広報スタッフが分担して作っています。また、誰どのコーナーを作っても同じ質の広報を作れるよう、各号ごとに担当を交代し、全てのコーナーを作れるよう努めています。

## 特集



◀▶年に数回、担当者が独自のアイデアの企画を練って記事を作り、編集を行う企画特集。コンクールに出品するのも企画特集を掲載した号



▼皆さまと語る会や、町長への提言の中から町民の皆さんに広くかかわる内容を抜粋して紹介する「Voice」のコーナー。通常、毎月1日号に掲載



表紙をめくると最初に目に飛び込んてくるのが「特集」のページ。三好町が皆さんに、今一番伝えたいことをお知らせするコーナーです。

いわば「お知らせ版ワイド」とも言える特集はその号の「目玉」。パブリックコメントの募集や予算・決算の報告、新しい制度のお知らせなど重要な内容ができるだけ行政用語を使わずに、皆さんに分かりやすくお伝えできるよう、広報スタッフは頭をひねっています。

# みんなのひろば



◀▶お気づきでしたか？1日号は青色ベース(写真右)、15日号は赤色ベース(写真左)。1日号と15日号の区別を分かりやすくするため、ほかのページも1日号は青系、15日号は赤系の色を多く使います

いろいろな分野で興味深い活動をしていたり、実績を残したりした人物やグループを紹介する「瞳を輝かせて」。その月生まれのお子さんを紹介する「おめでとうお誕生日」。町内の元気なお年寄りを紹介する「みつけたみよしのはつらつさん」や中学校の部活を紹介する「がんばれみよしっ子」。また俳句、短歌、狂俳の3つの部会の作品を掲載する「みよしの文芸」など、町民の皆さんが数多く登場する「みんなのひろば」コーナー。人気の高い2ページだけに、クイズやお誕生日の抽選も大切な仕事。不公平のないように工夫をしています。



▲「おめでとうお誕生日」のコーナーの抽選はいつも緊張の一瞬

# Hot Line 広報みよしができるまで

広報みよし

## まちの話



▲撮影はポジション取りが命  
▼直接コメントをもらえるチャンス。  
インタビューも忘れずに



町内のさまざまな行事や出来事を紹介するこのコーナー。情報収集や取材、原稿作成と皆さんが「広報係」と聞いてイメージする内容が一番近いのではないのでしょうか。  
毎号お知らせする出来事の中から、ベストショットを表紙にして掲載するのもこの担当。皆さんが思わず手に取りたくなる表紙にできるよう、撮影技術も日々勉強中です。  
また、町ホームページの「トピックス」まちの話題」を更新するのも大切な仕事です。広報よりもニュースをすばやく掲載でき、ニュースの一部は「みよし TODAY」動画配信」でもご覧いただけます。ぜひホームページをご利用ください。

## 伝言板

### 広報でイベント告知や会員募集

お知らせ版の中の「伝言板」では、町内で活動するサークルなどの会員募集や催しの案内などを掲載しています。掲載依頼は、発行(毎月1日号・15日号)の1カ月前まで(8/15号および1/1号は、さらにその1週間前まで)に申込書(秘書広報課で配布またはホームページ<http://www.town.aichi-miyoshi.lg.jp/hisyokoho/koho/index.html/> からダウンロード可)を記入し、チラシなどがあれば、一緒に添えて秘書広報課へ直接



## お知らせ版

広報みよしでは、お知らせ版を裏表紙から読んでいただくという、珍しい方式を採用しています。広報みよしを初めて見て戸惑った人もいるかもしれませんが、その理由は、ときとところなどの短い情報を簡潔書きで並べたときに、携帯電話に代表されるように、横書きのほうが読みやすいという判断からです。ただし、裏表紙から読むことを知らずに表紙から順に読んで文章が読みにくくないように、文章が左右のページにまたがってしまわないよう工夫しています。

# 広報が皆さんの家に届くまで

ホットライン広報みよしがどのような行程を経て皆さんのお手元に届くのか順を追ってご紹介します。

## 三好町役場



## 原稿作成

▶取材した内容をもとにパソコンを使ったDTPで原稿を作成

## 校正作業



▶作成された原稿は「文字校正」、「色校正」という2回の校正作業で誤字や文章の間違いがないかチェック

## データ渡し



▶最終のチェック(色校正)を済ませた原稿とデータを印刷会社に手渡す

◀印刷会社で行われるデータの確認

▼印刷された紙が1ページ分の大きさに折りたたまれる



## 印刷

▼片面A4サイズ8ページずつ、両面で16ページ分が1枚の大きな紙に印刷される



## 印刷工場

## データ確認



## 印刷会社



### 腕章

広報みよしスタッフの証で取材の必須アイテム。この腕章を見つけたらぜひ取材にご協力ください。

直訳すると机上出版。出版物のデザインとレイアウトをパソコンで行い、電子データを印刷所に持ち込んで出版すること。広報みよしは平成15年からこのシステムで作成しています。

### DTP (Desk Top Publishing)

文字校正・色校正  
主に文字校正は、文字の間違い文章を修正するチェック作業。色校正は写真や画像、線や背景色などの色をチェックして修正する作業。しかし、DTPを導入して以来、文字も色も随時チェック可能となり、現在は文字校正は1回目のチェック、色校正は2回目のチェックという意味合いに。

ここでは広報みよしで使うさまざまな用語を説明します。

## 用語でわかる 広報みよし

# Hot Line 広報みよしができるまで

広報みよし



▲シルバー人材センターで広報配布を担当する皆さん。写真右から、野々山正和さん、原田春雄さん、手塚喜之さん、宇佐美智さん。コメントは宇佐美さん

**シルバー会員の皆さん**  
シルバー人材センターでは4人の会員が、北部と南部に2人ずつ分かれ、2時間半ほどかけて各行政区の事務所配布します。雨降りのときが一番気を使いますね。80歳を越えて広報を運ぶのは骨が折れるけれども、こうして働くのが元気のひけつかもしれませんね。

## 裁断

▼折りたたんだ紙の縁、上、下、端の3辺を切り落としで出来上がり



◀三好町からシルバー人材センターに依頼をして、仕分け数の確認と各行政区事務所への配布が行われる



▲完成した広報をトラックに積み込んで仕分け工場に

## 納品

▼行政区ごとに並べて納品



## シルバー人材センター

## 仕分け

町内の25行政区の各組と集合住宅ごと、およそ90束に仕分けして梱包されシルバー人材センターへ運ぶ

## 仕分け工場

## 仕分け表

完成した広報は仕分け工場での行政区、さらに行政区の組ごとに束ねられます。その仕分けの基準になるのが仕分け表。引越などの異動があり、組の仕分け数変更があると各行政区から広報に連絡が入り、仕分け表の数を変更します。変更連絡があった時点ですでに印刷・仕分けが終わっており、変更が間に合わないときは予備分で対応。それでも足りないときは広報スタッフが行くことに。

## D80



株式会社ニコンの販売していたデジタル一眼レフカメラ。現在は生産終了。広報みよしでは平成19年からリース契約でこのカメラを使用。

## 全国広報コンクール

地方自治体の広報活動の向上を目的に、社団法人日本広報協会が主催し、昭和39年から実施しているコンクール。各都道府県コンクールから1つずつ自治体が推薦されて審査されます。平成22年の同コンクールが町村の部としての最後の年となり、翌平成23年の同コンクールから市の部となります。

## シルバー人材センター



▲行政区に運ぶ広報を運搬用トラックに手際よく積み込むシルバー会員さんたち

## 配布

行政区から皆さんのお手元に届くまでの流れは行政区ごとに異なります。

## 各組の組長さん

かわかみわたる  
▼三好上の川上渉さん



うちは10世帯の小さな組で、わたしもここが地元なので皆さん顔なじみ。けれど、三好に引越してきて、自分の家がどの組になっているのか分からない人は、一度組長をやってみると、いろいろと分かって良いのではないのでしょうか。広報の配布で、ご近所同士が顔を知っておくことが、災害時などに役立つと思います。

## 組長さん



▶例えば三好上行政区ではおよそ80組と80件の集合住宅に仕分けて配布する



## 行政区事務所

## 行政区の事務員さん



▲三好上区事務員  
の近藤広美さん

三好上では事務員が組長さんに配布するので、それだけで一日が終わってしまうことも。配布時には防犯にもなると思い、行き違う人になるべく声を掛けています。大変な作業ですが、まちで季節の花などを見つけると気分がいいです。健康のためにもいい運動だと思いつつ頑張っています。

▲三好上行政区では各組の組長さんがそれぞれの組の各世帯へ広報を配ってくれています

## 到着



▲多くの人の手に支えられて広報は各ご家庭に配布されています

## 広報みよしができるまで

▶写真上：ローアングル写真  
写真下：流し撮りの写真



### 行事・スポーツの写真

#### ポイント1 行事の流れを予習

スポーツやお祭りなど、撮影したいイベントの流れは事前に予習を。次に何が起きるか分かっていると、どこから写真を撮る狙うと良いかも分かります。

#### ポイント2 さまざまなアングルで

同じ場所から同じ姿勢で何枚も撮るのではなく、場所や高さを変えたり、ズームで撮ったりしてみよう。山車<sup>だし</sup>の写真などはローアングルで撮るとそびえ立つような迫力があがります。

#### ポイント3 流し撮りも有効

スポーツなどでは流し撮りも雰囲気が出ます。三脚などで上下が動かないように固定し、対象者の動きに合わせて追いかけるようにシャッターを切るのがポイントです。

#### ポイント4 少し早めにシャッターを切る

球技などの場合、撮りたい瞬間にシャッターを押してもすでにボールは画面の外にあるかもしれません。撮りたい瞬間のほんの少し前にシャッターを切ると上手くいきます。

## 広報流写真塾

広報ではこんなことを意識しながら写真を撮っています。ご家庭でお試ください。

### 子どもの写真

#### ポイント1 子どもの動きは予測不可能

撮影場所に向かう道中にも不意にシャッターチャンスがあるかも。周囲の安全に気を配りながらいつでもシャッターを切れる用意を。  
ポイント2 何かをしているときに狙って自然な表情を

「ひたひた撮るよ」と構えるとピースサインの写真になってしまいがち。食事中や遊んでいるときなど、少し離れてズームで撮影を。

#### ポイント3 カメラは子どもの目の高さ

試しに上を見ながら笑ってみてください。自然な笑顔は難しいものです。これは子どもと同じ。お子さんを撮影するときは忘れずにも同じ。

#### ポイント4 お母さんをカメラの後ろに

カメラ視線がほしいときの鉄則。特に小さなお子さんはお母さんの居場所を常に確認しています。お母さんにはカメラの後ろに立つてもらいましょう。

#### ポイント5 手に何か持ってもらう

お子さんの手におもちゃなどを持ってもらって写真に動きが出るのでおすすめ。「気を付け」の写真にならないように。



お子さんの目の高さで撮影

### 情報提供募集

広報みよしでは「瞳を輝かせて」で紹介させていただく町内在住、在勤、または在学の個人やグループを募集しています。また「まちの話題」では三好町内のさまざまなニュースを紹介しています。いろいろな分野で、興味深い活動などをしている個人、グループをご存知の皆さんや、町内の面白いイベントやニュースをお知りの皆さんはぜひ秘書広報課まで情報提供をお願いします。

広報みよしは町内の全戸に配布しているほか、町ホームページ(<http://www.town.aichi-miyoshi.jp/>)でもご覧いただけます。また、町内6カ所の公共施設(三好町役場、中央図書館、三好町民病院、サンアート、総合体育館、サンネット)の掲示板には、月2回「目で見える町政」の掲示を行っています。

広報みよしに関するお問い合わせと全ての情報提供は、役場秘書広報課まで

電話：☎(32)881517  
ファクス：☎(34)60008  
電子メール：✉[nisyokoho@town.aichi-miyoshi.jp](mailto:nisyokoho@town.aichi-miyoshi.jp)